

# 活動成果報告書

令和6年度（第28回）「チヨダ地域保健推進賞」

<p>活動テーマ</p> <p>保健所管内（守口市・門真市）における地域連携感染対策ネットワークの構築 ～感染対策向上加算1の4病院との協働から保健所管内全12病院多職種のネットワーク化へ～</p>	
<p>グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)</p> <p>大阪府守口保健所 地域保健課 感染症チーム</p> <p>代表者：渡邊 美幸</p>	
<p>勤務先：大阪府守口保健所</p> <p>所 属：地域保健課 感染症チーム</p> <p>所在地：〒570-0083 大阪府守口市京阪本通2-5-5</p> <p>TEL：06-6993-3133</p> <p>FAX：06-6993-3136</p>	
<p>令和7年1月30日 薬剤耐性菌の感染対策研修</p>	

【活動方針】大阪府守口保健所管内の人口（R6.9.1時点）は、守口市141,058人、門真市116,511人。管内には12病院があり、この内300床未満の中小規模病院が9病院（75%）を占める。地域の医療機関のリーダー格となる感染対策向上加算1を取得している病院（以下、加算1病院）は4病院である。

上記背景の中、令和6年4月以降、複数の病院から薬剤耐性菌（VRE・CRE）の発生があったものの、院内で薬剤耐性菌が発生しても直接他の病院に治療や対応等について相談していないケースが多く、管内地域での発生状況や課題の共有及び相互支援・協力関係が脆弱であるという課題が見えてきた。

コロナ禍において加算1病院と保健所が連携し医療機関や高齢者施設等のクラスター対応及び自宅療養者支援等を行った経験を通して、保健所は感染症の危機に備えて平時から計画的に体制整備、関係機関との連携強化により、地域の関係機関が一体となった感染拡大防止対策の向上が求められている。このため、大阪府守口保健所では令和6年3月に健康危機対処計画（感染症編）を作成し、令和4年度に設置した感染対策向上加算1病院連絡会と感染管理認定看護師（以下ICN）連絡会をより実効性のある体制にするため、令和6～7年度には全12病院のネットワーク化と院内感染対策をより実践的な内容にしていく計画である。

〈表1〉管内病院の感染対策向上加算取得状況

	守口市	門真市	計
感染対策向上加算1	4	0	4
感染対策向上加算2	1	4	5
感染対策向上加算3	1	0	1
感染対策向上加算なし	1	1	2

【活動経緯】〈表2〉感染対策向上加算1病院連絡会及びICN連絡会の開催状況

令和4・5年度	感染対策向上加算1病院連絡会 (以下、病院連絡会)	感染対策向上加算1病院ICN連絡会 (以下、ICN連絡会)
開催	年1回	年1回

# 活動成果報告書

目的	感染対策の情報共有や感染症の知見を深めることで、院内感染防止対策を強化、感染の未然防止や早期解決するために連絡会を立ち上げる。	
対象	管内加算1病院(4病院)の感染対策従事者	管内加算1病院(4病院)のICN
内容	薬剤耐性菌についての研修や職種別グループワーク。ウイルス性出血熱疑い患者の対応について机上訓練等。	意見交換 (各病院からの情報提供)
成果	加算1病院同士の顔合わせができ、メーリングリストを作成することで、一斉に情報提供や依頼を行うことができ関係機関連携の一助となった。加算1病院は、自院のマニュアルの見直しやカンファレンス参加医療機関への研修等に活用していた。令和6年度からは実践型のプログラム内容づくりを加算1病院のスタッフが企画から運営に携われるような病院連絡会運営をしていくことへの合意を4病院全てから得ることができた。	

## 【活動内容と成果】

### 1 加算1病院連絡会の開催

- ・目的：感染制御チーム（ICT）、特に感染制御医師（以下、ICD）や医師が、地域における支援の必要性を理解し、感染対策向上加算1病院の役割について認識を共有するとともに、ICN等が地域支援に出向ける院内の体制づくりを考え、地域連携の必要性の意識を高めること。

#### ・事前準備

今年度は、企画段階から加算1病院2施設のICNと一緒に考えた（令和6年5/9、7/9、7/30事前・事後の打ち合わせを3回実施。\*7/30は加算1病院4施設のICNが参加）。所内では健康危機管理を担当する企画調整課と、病院連絡会の今後の方向性を検討した。

#### ・当日

日時：令和6年7月30日（火）15時～17時15分

対象：加算1病院の感染対策や地域連携に関わる医師、看護師、薬剤師、検査技師等

内容：講演「感染対策で地域医療を支えるー施設間連携でできることー」

講師 管外公的病院 ICD \*講義内容は、後日12病院へオンデマンド配信

職種別グループワーク・全体発表「テーマ：自院・地域における感染対策で取組みたいこと」

- ・成果：企画段階からICNに参画していただくことで、病院全体を動かすには医師の力が必要不可欠と意見があり、プログラムに反映したことで病院連絡会には4病院全てから医師の参加があり、職種別のグループワークは活発な意見交換ができた。また病院の実情に応じたグループワークが、多職種間で同じ立場で意見交換ができ、自院だけでは気づきにくい、他院での先駆的な取組が共有できた。

病院連絡会参加者の事後アンケート結果では、「地域の医療機関や社会福祉施設等における感染対策の支援の必要性について」は、「これから支援に取り組んでいきたい」と回答したのが67%、「必要性は理解しており既に取り組んでいる」が20%と加算1病院の地域支援への意識が高まった。「地域における感染対策で取組みたいこと」は、「福祉施設への支援や地域単位でのサーベイランスの積極的な活用」、「データの情報収集と比較」等の意見があった。

加算1病院と保健所が、「全12病院へ拡大したネットワーク構築」と「段階的な計画立案が必要である」との共通認識を持ち、協働で進めていくことができる大きな成果が得られた。

# 活動成果報告書

## 2 感染対策に関するニーズ把握調査

- ・目的：地域の感染対策に活かせるネットワーク体制を構築するにあたり、管内の加算1以外の病院の感染対策の現状やニーズを把握する。
- ・対象：加算1病院を除く8病院の感染対策を担当する職員等。
- ・方法：令和6年10月～11月保健所職員による病院訪問（対面調査）。
- ・成果：全8病院から、令和7年度感染対策ネットワークの参加とメーリングリスト共有の了承が得られた。

感染対策について困っていることでは、「感染症の最新の知見が入りにくい」、「マニュアルがあっても適切な行動が取れない」、「教育が行き届かない」等の意見があった。

ネットワークに期待することでは、「地域の感染対策の情報がほしい」、「地域のトピックスやツールの提供を希望する」、「フロー図やマニュアルを毎年出してもらえると良い」、「他の病院が職員研修をどうしているか、抗生剤やワクチン不足にどのように対応しているか、不足した時に助けてほしい」等の意見があった。一方で、「他の病院と討議する際に縮こまってしまう」、「こんなこともわからないのかと思われぬか」等不安の声も聞かれた。

## 3 ICN 連絡会の開催

- ・目的：加算1病院同士の情報共有を深めることで、地域全体の感染症課題の解決に向けた相互協力を促す機会とする。
- ・日時：令和7年2月27日（木）14時～16時。
- ・対象：加算1病院の4病院のICNと保健所職員
- ・内容：8病院の聞き取り結果の共有。R7年度感染対策ネットワーク体制と次年度以降の計画案、令和7年度会議の企画検討、ICNと保健所との地域活動報告等。
- ・方法：対面
- ・成果：ICNと保健所が協力して地域の高齢者施設に教育することの重要性を共有できた。

## 4 薬剤耐性菌の感染対策研修会

- ・目的：管内の全病院が、AMR対策について理解し、院内で実践できるようにする。また、顔の見える関係を築き、実際にAMRが発生した際も病院間で協力・連携できる体制を目指し、研修会を開催する。

- ・日時：令和7年1月30日（木）15時～17時

- ・対象：令和7年度のネットワーク化を目指し、全12病院対象。

- ・内容：講演「薬剤耐性菌の感染対策（CRE・VREを中心に）」講師は、初めて管内大学病院に令和6年9月から着任したICDを招聘。

職種別グループワークにて、発生時に困ると思われることや予防するためにはどのようなことが自院でできるか、既に取り組みされていること、工夫について話し合う。

- ・方法：対面研修。病院からの希望もあり、講義は後日オンデマンド配信する。

- ・成果：10病院が参加。5病院から医師の参加もあった。令和6年度にCRE・VREが発生した病院は全て参加があった。職種別のグループワークにより、顔の見える関係づくりにつながった。

### 【今後の計画】

- 1 令和7年度からは全病院を対象とした地域連携感染対策ネットワーク会議を開催する。
- 2 全病院が日常的に情報交換や相談できるように、メーリングリストを稼働する。
- 3 将来的には、管内における高齢者施設や在宅支援者を含めたネットワークの構築を考えている。